【2026 年度 中間レポート奨学生の声】

奨学生 A さん

・ 大学では、ライブ・イベント制作やマーケティング、映像制作を学ぶとともに、バロック音楽の修得や複数楽器の演奏を通して多角的な音楽観を養っています。また、ビジネスコンテストへの挑戦や本格化させた就職活動を通じ、「音楽で世の中や人々の生活をいかに豊かにできるか」を追求しています。
軽音楽部では引き続き部長を務め、部員の意見集約や助成金の活用など、活動環境の整備に尽力してきました。演奏者と運営者の両視点を経験したことは、音楽を多角的に捉える貴重な機会となっています。
奨学金によるご支援のおかげで経済的負担が軽減され、アルバイトに費やしていた時間を学業の予習復習、楽器練習、探究活動へ充てられるようになりました。より高いレベルを目指して勉学に打ち込める環境に深く感謝しております。
今後は、出演者と来場者の双方が満足できるイベント企画や音響・空間演出の追求に取り組み、実際の現場で経験を積んでまいります。ご支援への感謝を胸に、大学で得た知識と経験を将来へつなげ、音楽を通して人々に感動や希望を届けられるよう一層精進いたします。

奨学生 B さん

・大学・学外のオーケストラや吹奏楽団での指揮・指導を通じて実践経験を積み、自ら 50 人規模の大学吹奏楽サークルも設立しました。中・高校 5 団体の指導では複数校を上位大会へ導く成果を上げたほか、プロの現場見学からは将来目指す指揮者像を明確にしました。
学業では指揮・チェロ・ピアノの習得に加え、和声学や音楽史、苦手意識のあった語学（英・独）の克服にも工夫して取り組んでいます。
奨学金は楽譜や教材費、演奏会見学費、学費に充てており、安心した環境で学外での活動と学業を両立できていることに心より感謝しております。
今後は指揮法やスコアリーディングの更なる研鑽に加え、『7 つの習慣』などを通して人と協力するためのコミュニケーション力も磨いてまいります。また指導や現場見学で得た知見を確実にアウトプットし、技術と引き出しを増やしていきます。
藤澤記念財団奨学生としての自覚と感謝を胸に、今後も絶えず努力を重ね、奏者とともに音楽をつくり人々と社会に貢献できる指揮者を目指して全力で取り組んでまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

奨学生Ｃさん

・学業面では授業後の振り返りや課題に丁寧に取り組む一方、授業と実技練習の両立に課題が残ったため、時間の使い方や効率化を今後の改善点としました。実習の学校ふれあい体験や子ども向けサークル活動では、個に応じた接し方の難しさや教員の大変さを実感し、指導力に加え臨機応変な対応力や子どもを深く理解する重要性を学びました。
音楽活動では、ゼミ・専修有志のコンサートで合唱（バックコーラス）に初挑戦し、外国語の発音や表現に苦戦しつつも合唱ならではの楽しさや表現の幅を体得しました。現在は 11 月のサラマンカホールでの公演に向け練習に励んでいます。
奨学金は主に学費に充てており、学べる環境への感謝を胸に日々真摯に取り組んでいます。来年度は模擬授業や教育実践観察に積極的に挑み、子どもの理解度に応じた柔軟な指導力を養いたいと考えています。また、時間の使い方を見直してピアノや声楽などの実技と授業との両立を実現させ、専門的技術を高めます。今後も多様な音楽活動へ挑戦し、将来の目標に向かって着実に成長してまいります。

奨学生Ｄさん

・管楽器の修理技術修得を中心に学びつつ、一演奏人としても活動に尽力しています。夏季休暇中の練習成果により定期演奏会オーディションに合格・出演を果たし、演奏者の視点を深める貴重な経験を得ました。修理の学習では予習復習の成果から楽器間の共通原理への理解が進む一方、新たな技術には苦戦することもあるため、一日一日を大切に確かな技術習得を目指しています。
奨学金は主に授業料、後期から増えた教材費、実家からの通学交通費に充てており、経済的負担が軽減されたことで安心して学業やアルバイトと両立した生活を送れています。温かいご支援に心より感謝申し上げます。
来年度は就職活動を見据え、現場で通用する実践的な修理技術の向上と、通学時間・放課後を活用した知識のさらなる深化を図ります。また、演奏者に寄り添った修理技術者となるため、来年度も定期演奏会への出演を目指し、演奏活動にも積極的に取り組む所存です。
今後も奨学生としての自覚を持ち、時間を有効活用しながらより一層学業に励み、将来管楽器修理技術者として社会に貢献できるよう精進してまいります。

奨学生Ｅさん

・前期は週 15 時間の授業と 7 時間の自習で各種管楽器の分解やタンポ交換、はんだ付け等

のリペア技術を学び、先生方の指導のもと繰り返し練習に励みました。吹奏楽の依頼演奏での地域貢献や、未経験楽器の演奏法習得、キャリア形成の学びにも取り組み、多角的な知見を得ました。
奨学金は１年後期の授業料に充て、今後の支給分も生活費や教材道具代に充てる予定です。アルバイトを抑えられたことで自主練習やコンサート鑑賞、楽器店見学の時間を確保でき、焦りや不安なく学業に専念できる環境に心より感謝申し上げます。
来年度は希望企業の内定獲得に向け、成績上位者に与えられる資格試験の受験資格取得を目指します。同じ目標を持つ友人と切磋琢磨し、自習時間を確保して得意分野の伸長と苦手克服に徹底して取り組みます。受験資格取得後は妥協なく技術を高め、企業訪問やインターンにも積極的に挑戦する所存です。
演奏者や指導者を支える管楽器リペアマンという夢を叶えるため、技術と専門知識の習得に一層励み、将来音楽業界へ貢献できるよう努力を重ねてまいります。